

寒川町立寒川小学校

研究テーマ：やりたい気持ちがあふれる子どもの育成
～はてな・なるほど・だったらの授業づくりを通して～

1 実践の目的

本校の研究は今年で4年目になり、「はてな・なるほど・だったら」の授業づくりを通じて授業力の向上を進めてきた。今年度も、昨年度に引き続き「なるほど(本時で身に付けたい力)」の共通理解が曖昧という課題を改善することをスタートとして研究に取り組み、「なるほど」を全体でしっかり押さえることで、児童の自然な思考に沿った「だったら(新たな発問)」へ繋がっていくと考えた。本研究で目指す児童像「楽しむ・見つける・活用する子」を育てていくために、研究を継続していく。

2 実践の内容

＜本校の今年度の重点的な実践＞

- ① 児童の「なるほど」に結びつくような「はてな」を考え、本時で身に付けさせたい力の定着をねらいとした。
- ② 数学的な見方・考え方を働かせるためのキャラクター「みかたん」の活用方法を職員全員で改めて確認し、本単元で重要な着眼点をより明確にした授業実践に取り組んだ。
- ③ 研究授業以外でも実践した授業の板書画像から数学的な見方・考え方について話を深めた「たてわり部会」や「先生、スタイルの会」などで本校の研究スタイルの共有を行い、「みかたん」の活用方法やお互いの指導方法などを学ぶ機会を設け、学校全体の授業力向上を目指した。

＜講師招聘の内容＞

寒川小の進めている研究を全体で共有するために、毎年、4・5月頃に明星大学客員教授兼明星小学校長の細水保宏先生を招聘し、講演会を開催している(今年度は研究授業も同時に行った)。内容は以下のとおりである。



○算数のよさや美しさ、考える楽しさを味わう授業づくりを行うためには、次のことを教師が意識することが大切。

- ① 考えたくなる、表現したくなる場を創る。
- ② 考えてよかった、表現してよかったと感じる場を創る。
- ③ 相手を意識して表現する力を育てる。
- ④ 教師自身が算数・数学を楽しむ心をもって授業する。

＜研究協議の内容＞

細水先生を招いて各学年1回、授業研究を行い、「パネリスト方式」で協議を行った。「なるほど」を中心に研究を進めていることもあり、協議の柱として最も多かったのは「子



どもたちが振り返りに本時の目標をつかめる授業であったか」であった。そして、「子どもたちの意欲を湧き立てる『はてな』であったか」も次いで多い協議の柱となった。司会を中心にパネラー、授業者、フロアの全員で協議した後、本日の授業とともに協議会のもち方についても細水先生から指導・講評をいただいた。

3 実践の成果

<学年の成果>

- 数学的な見方・考え方（「みかたん」）を手立てとし、なるほどの習得に結びつけることができた。また、みかたんをヒントに本時で学んだことをノートにまとめることができるようになってきた。
- 低学年では具体物を活用したことで子どもたちの意欲を引き立てた。
- 場面設定、実物を用意するなどの工夫をしたことで、算数の学習と日常生活を結びつけて考える児童が増えてきた。
- クイズ的要素を取り入れた導入により、子どもたちの意欲の高まりがあった。
- 「ちらっとタイム」を活用したことで、情報を集めようとする主体性が育まれた。
- 既習したことを活用（ノートの活用）し、課題に対する考えの手立てとすることができるようになった。
- 丁寧なノート指導で、本時の課題解決の手立てとなるような素地がつくられていた。

みかたん



<全体の成果>

- ① 「みかたん」（数学的な見方・考え方）の活用について共通理解を深め、授業の中で機能してきた。「みかたん」を活用する場面を絞ったことで、児童が押さえるべきポイントがわかりやすくなった。

- ② パネリスト方式の研究協議がさらに充実した。今年度は多くの職員がパネリストや司会者を務め、様々な視点で協議を行ったことで、よりよい授業づくりについて全体で検討や共有をすることができた。
- ③ 児童同士の考えを交流する機会を設け、自力で解決する場面が増えた。低学年では「ちようちよタイム」、高学年では「ちらっとタイム」として提案し、自力での解決が難しい児童も他者の考えに触れることで解決方法を見出すことができた。

4 今後の展開（課題から）

- ① 「みかたん」の共通理解が深まり、多くの児童が課題に主体的に取り組む様子が見られる一方、基礎的・基本的な知識・技能の習得が不十分なため、課題解決ができなかったり、途中で諦めたりする様子も見られた。引き続き、反復学習や教室掲示等を工夫して既習事項の定着を進める。
- ② 授業研究を重ねる中で、「ずれ」があることで児童の「やりたい！」という思いが高まったり、学習理解が深まったりすることを実感した。「答えのずれ」や「考え方のずれ」といった「ずれ」が生まれるような授業づくりを実践していく。

以下のアンケートを児童に年3回実施した。1. 先生はあなたの良いところを認めている。2. 課題解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいる。3. 学習した内容について見直し、次の学習につなげられている。各項目は年間で大きく変わらなかったが、1. は9割以上が肯定的に回答、2. 3. は約7割が肯定的に回答した。2. 3. は高学年ほど割合が下がる傾向があるので、より一層の学習理解を深め、児童の主体性を促していきたい。